

講演会「釧路地域におけるアイヌ伝統芸能の継承と展開」を開催しました

イシオロレ（十勝地方のアイヌ語方言で「ご挨拶申し上げます」という挨拶の言葉）！

令和8年6月27日（土）、札内コミュニティプラザにて

釧路市立博物館の城石梨奈さんをお招きし

アイヌ文化講演会「釧路地域におけるアイヌ伝統芸能の継承と展開」を開催しました！

令和8年度第1回幕別町アイヌ政策推進交付金事業関連講演会



釧路地域に伝わる「チロンヌップリュセ（狐踊り）」（1954年） 画像：釧路市立博物館 所蔵

アイヌ伝統芸能には、座り唄などの歌唄、立ち舞を主とする古式舞踊、トンコリやムックリに代表される器楽の演奏などがあります。釧路地域は、特に歌唄や古式舞踊のバリエーションが多く、伝承活動も活発に行われてきたほか、ムックリ、トンコリの代表的な製作者・演奏者を輩出してきた地域でもあり、伝統芸能の中心地の一つとも言えるでしょう。これらの芸能の歴史的な遷移や発展についてご紹介したいと思います。



講師 **しろいし 梨奈さん**
釧路市立博物館 学芸員

6月27日（土） 入場無料

午後2時～3時30分 札内コミュニティプラザ
集会室1・2（幕別町札内音楽町311-11）

定員60名（先着順・要事前申込） 申込は6月26日午後5時まで

【申込・問合せ先】幕別町教育委員会生涯学習課アイヌ文化振興係
☎ 0155-54-2006 ✉ ainubunkakakari@town.makubetsu.lg.jp
※Eメールで申し込みの場合は、件名を「アイヌ文化講演会」とし、
①氏名②お住まいの市町村③電話番号を記載して送信してください。

こちらが講演会のチラシです📄

城石さんによる講演内容を簡単に紹介します。

前半は、釧路地域のアイヌ民族の歌や踊りについてのお話でした。

伝承活動の歴史的な過程をはじめ、

バツタ踊りやキツネ踊り、剣の舞といった各舞踊の変遷について、

映像や写真資料も取り上げながら説明いただきました。

釧路地域では、白糠、阿寒、弟子屈などさまざまな地域で伝承活動が続けられてきましたが、

それぞれの地域で限定的に伝承が行われてきたのではなく、

芸能の保持者である複数のキーパーソンを媒介として、

より広域的に伝承が行われてきた、といいます。

休憩をはさんで後半は、ムックリ（口琴）の伝承についてのお話でした。

2024年に釧路市立博物館で行なわれたムックリに関する企画展を例にあげながら、

ムックリの製作や演奏といったさまざまな視点からの伝承活動についてお話いただきました。

最後にはまとめとして、現在までアイヌの伝統芸能が伝承されてきたという事実が重要だが、

今後の課題としては、変化の過程を含めて記録をしていくことが

公的機関や研究機関の役割として大切だということです。

ご参加いただいた皆さま、誠にありがとうございました！



（幕別町教育委員会生涯学習課アイヌ文化振興係）